

選択科目

《整形外科》

上級医とペアを組み、指導を受けながら病棟・外来での業務や手術を通して、整形外科の基本的知識、技術の習得を目指します。当科は初期研修にて選択が可能で、期間中に本人の希望があれば、他病院の見学や学会などへの斡旋・紹介も積極的に行います。

《泌尿器科》

人口の高齢化に伴った泌尿器疾患（前立腺肥大症、前立腺癌、尿失禁など）の増加により、泌尿器科の臨床的需要は増大傾向にあります。初期研修時の目標は泌尿器科領域のプライマリ・ケアならびに泌尿器科特有の基本的検査・治療手技・診断知識の取得です。泌尿器科指導医による研修の下、短期間に習得できるカリキュラムを考えています。

《耳鼻咽喉科》

急性気道疾患やめまい疾患のプライマリ・ケアを学ぶことができます。具体的には、各検査や処置の習得を目標としたカリキュラムを考えています。また、実際の手術（鼓室形成術、鼻副鼻腔内視鏡手術、口蓋扁桃摘出術はじめとする頭部良性手術）に参加することにより、局所解剖や各疾患についての理解を深めます。

《病理診断科》

内科や外科などから提出された検体の切り出しの仕方や病理診断の仕方を習得できます。病理診断では病死で亡くなられた患者さんの病気の状態を、肉眼所見と頸微鏡所見から学ぶことができます。

《脳神経外科》

脳血管障害や頭部外傷など、緊急対応の必要な疾患が多いのが当科の特徴です。急性期血行再建治療エビデンスの確立により、近年さらに急性期治療の重要性が注目されています。これらプライマリ・ケアの習得を目標としたカリキュラムを受けることができます。

勤務条件等

▶ 勤務条件

- 【勤務時間】午前8時30分～午後5時30分 ※週40時間勤務
- 【当直】月平均4回
- 【休日休暇】日曜日、祝祭日、年末年始（12/29～1/3）、夏季休暇3日間、年次休暇（年間20日間、初年度は10日）、忌引き休暇等

▶ 社会保険等

- 【社会保険等】労働者災害補償保険、雇用保険に加入
- 【健康管理】定期健康診断、B型肝炎・インフルエンザ等の予防接種
- 【医師賠償責任保険】病院で負担（初期研修のみ）

《放射線科》

CT、MRI、血管造影を中心とした研修を行います。CT、MRIは撮像原理や造影理論、基本画像と解剖の理解、頭部・胸部・腹部の基本的疾患の診断、レポート作成が目標です。血管造影は主に腹部インターベンションの助手として、穿刺、カテーテル操作、圧迫止血、患者管理を修得することを目標とします。

《麻酔科》

当センターにおける麻酔科研修では、外科的侵襲から患者さんを護るという現代麻酔の基礎を、手術麻酔を通じて理解することを目標にしています。また、救命処置の基本となる気道確保、血管確保といった基本手技や循環・呼吸・体液管理といった全身管理の知識を理解・取得できるようにしています。

《リハビリテーション科》

回復期は急性期と生活（維持）期を結ぶ大切なステップとなる時期です。医療保険に加え、介護保険の利用を促し、介護支援専門員などと連携しながら、各種住宅サービスを確保していきます。患者・家族を中心に、医療・福祉・保健・地域は一体となって治療していく分野です。

《皮膚科》

将来、皮膚科を標榜する先生には、最も重要な皮疹の診かたから丁寧に、内科系を志す先生には、将来出くわす可能性の高い疾患を中心に、外科系を目指す先生には、創傷の診かたと治療方法について習得出来る様に指導します。



社会医療法人 さいたま市民医療センター

Saitama Citizens Medical Center

初期臨床研修プログラム 総合診療専門研修プログラム 小児科専門研修プログラム



Saitama Citizens Medical Center

〒331-0054 埼玉県さいたま市西区島根 299-1

【お問い合わせ先】

TEL.048-626-0011(代表) / FAX.048-799-5146
E-mail. soumu@scmc.or.jp
(窓口:事務部総務課 採用担当)

募集詳細はHPをご覧ください

さいたま市民 研修医

<http://www.scmc.or.jp/>



検索

心と命をつなぐ、ホスピタリティを

さいたま市民医療センターは「患者を中心とした医療を目指す総合医」と「専門的技術と視野を兼ねた専門医療支援」のホスピタリスト（病院総合医）による医療の実践を目指としています。

厚生労働省の基準案に従ったローテート方式による臨床研修プログラムを策定し、地域医療の実践的かつ幅広い研修が可能な初期・後期研修医のための研修プログラムを作成。

その研修理念は、深い人間性に基づいた優れたプライマリーケアの臨床能力を修得した医療の提供ができる医師の育成です。研修医が将来どの方向の専門医に進んだとしてもジェネラリストとしての理念を保持できる教育を提供します。



開設 平成21年3月1日

運営方式 さいたま市が建物等を整備し、社会医療法人が運営する公設・民営方式

病床数 340床（回復期リハビリテーション病棟47床含む）

診療科目	内科	外科	小児科
呼吸器内科	消化器内科	アレルギー科	
循環器内科	乳腺・内分泌外科	放射線科	
消化器内科	整形外科	病理診断科	
腎臓内科	脳神経外科	麻酔科	
血液内科	皮膚科	救急総合診療科	
糖尿病・内分泌内科	泌尿器科		
脳神経内科	耳鼻咽喉科		
リウマチ膠原病科	リハビリテーション科		



総合医マインドを持つ
ジェネラリストを育成する
プログラム

患者数が多く
幅広い臨床経験が積める
恵まれた環境

自治医大との連携により
一般的な疾患のみならず
高度先進医療も学べる

当院の臨床研修プログラムは深い人間性に基づく、かつ優れたプライマリーケアの臨床能力を発揮する医師の育成を目指しています。大学病院では経験できない、都会型の地域医療に密着した各診療科の疾患を経験できます。将来あらゆる領域のキャリア形成にも対応可能な、総合医マインドを持ったジェネラリストを育成するプログラムです。

340床の規模で年間入院患者6,000人以上、救急車搬送年間約5,000件の救急収容能力を持ち、小児救急車搬送はさいたま市の約3分の1を受け入れています。内科、小児科は特に、病棟診療だけでなく、救急外来で多くの症例の診療を経験することができます。外科では多くの緊急救手術患者を経験できます。さらに少子高齢化先進地域にある病院のノウハウを投入するなど、次代の医療を担うための経験を積める環境を形成しています。

研修プログラムには協力型臨床研修病院として自治医科大学附属さいたま医療センターを組み入れ、高度先進医療を経験し学ぶ機会も設けています。当センターでプライマリーケア疾患としてのcommon diseaseを多数例経験し、大学附属病院の高度先進医療を学ぶ。これにより医師個人の能力のさらなる拡大を図ることで、現代の医療の質と量の偏在の問題を解決することを目指しています。

prologue
Saitama Citizens
Medical Center

ジェネラリストとしての理念を 貫くことができる医師に

病院長 百村 伸一

我が国では人口の減少に歯止めがかかる一方で超高齢化が急速に進行しています。このような現在の社会で求められるのはゆるぎのない総合医としての基盤を持った医師です。勿論、将来、高度に専門的な医療を目指す皆さんも多いと思います。しかし、将来どの専門に進むとしても深い人間性に基づいたジェネラリストとしての理念を貫くことができる、そういう医師になれるような初期臨床研修を私たちは提供したいと考えています。

また、当院は大学病院では決して経験できない、地域に密着した医療を体験できる病院です。研修の場として当院を選んでいただけるのであれば、上記の理念に基づいた有意義な研修を経験していただけるよう最大限のサポートをしてゆきたいと考えています。



総合診療専門医プログラム責任者

時代のニーズに応えられるジェネラリストを育成します

副院長／内科 石田 岳史

超高齢社会の到来、季節変動やパンデミックなどに対してフレキシブルな対応ができる総合診療専門医が求められています。医学に関する広い視野と見識を兼ね備えることは当然として、multimorbidity（多疾患併存）、polypharmacy（多剤併用）対策や複雑な社会背景を有した患者にも対応できる医師が望まれています。当センターの研修では、様々な領域の指導医とのディスカッションや多職種での意志決定を重視しています。次世代の日本の医療を担う専攻医にとって理想的な教育環境を提供します。



初期臨床研修プログラム責任者

どこに行っても活躍できる、医師としての基本が学べます

救急総合診療科科長 坪井 謙

当センターの研修プログラムは、「患者さんを診る力をつけること」を基軸としています。それは、赤ちゃんから100歳以上の方、病気、怪我、子供を診られるジェネラリストを育てるということです。そのため、内科、外科、小児科そして、救急をしっかり学んで頂きます。今後皆さんが専門医、総合医のどの道を選ぶにしても、患者さんを診るというその基本は変わりません。その土台を築くことが必ず皆さんの将来的なキャリア構築に役立つ信じております。スタッフ全員が研修医の方々の指導にコミットしています。

初期・後期研修医と指導医が語る



初期臨床研修医

医師として幅広い視野を養うことができる病院です。

石川 韶子

当院の研修プログラムには、外科3ヶ月、小児科3ヶ月が必修で組み込まれており、将来の専門分野に問わらず、医師として必要な土台を獲得できます。小児科では夜間救急輪番を市内で最多の週3回受け入れており、研修期間中は小児科当直を行います。どちらも夜に受診するが多く、実際に問診したり診断をつけたりと充実した3ヶ月間でした。また、成人の救急外来では研修医がファーストタッチし、内科研修中であればその後の入院から退院まで一貫して診ます。多職種と連携しながら退院調整を含めたプランニングをチームで行うため、社会背景を含めて患者さんに寄り添うことができます。実際に感じたのは、コメディカルや専門診療医に相談しやすいことでした。当院は研修医の数が少ないことから、一人ひとりに合ったプログラムを相談しながら決めていくことができます。専門外だから診られないではなく、まずは診ることができます。医師を当院で目指しませんか。

さいたま市民医療センター



指導医

患者さんの利益を基準として判断する力を

循環器科科長 中村 智弘

研修医の方にはできるだけ現場で責任を持つもらうようにしています。実践に基づいた経験を積むことが成長に繋がるからです。しかし、ただ任せることではなく、上級医とのコミュニケーションが常に取りやすい環境がここにはあります。循環器科では、患者さんを診てから毎日相談し合うようにしていますし、電話も24時間繋がるようにしています。

当センターには複雑な社会的背景、様々な疾患をお持ちの患者さんがいらっしゃいます。多様な患者さんと向き合うという経験を積むことは、今後皆さんができる病院で活躍されるにしても、将来的に医師としてだけでなく、人間としての深みを増すことに繋がると信じています。



指導医

小児の初期研修の場として最適な診療の最前線

小児科科長 古谷 憲孝

当センターでは小児の二次診療を数多く受け入れており、初期研修では救急外来で3人目の小児科医として当直を担当し、発熱や痙攣を起こした子どもに対して、上級医の指導のもとで診察・検査・入院の判断を行います。病棟では診療チームに属して川崎病、感染症、IgA血管炎などの検査・治療を行います。多くが1~2週間で軽快する疾患なので、入院した子どもが元気に駆け回って退院する姿を見送ることができます。長期治療と判断すれば、大学病院や小児病院へ紹介するので、三次診療機関との連携も学べます。診療の最前線で疾患の季節変動や治療の変化を感じながら、未来ある患者さんに自分が何をすれば良いのか、他の医師や施設とどう連携すればよいかを学んでください。

初期臨床研修医

患者さんに優しい病院です

浅見 優介

地元である埼玉県で研修をしたいという思いから、地域医療に注力し豊富な症例数を誇る当院での研修を選びました。研修をしていてつくづく思うことは「患者さんに優しい病院」だということです。すべては患者さんの利益のために、従来の診療科の枠をこえて総合的に患者さんを診ることができます。体制が整っています。研修医もその一員として責任ある診療が求められます。優しく、時には厳しく指導を受け、患者さんから多くのことを学ばせてもらっています。また現場で関わるスタッフ同士の空気感がよく、円滑なチーム医療の基本を身につけることができます。研修医の希望を可能な範囲で聞いてもらえることも魅力的です。新型コロナウイルス感染症の流行とともに幕を開けた研修生活ですが、2年目となりCOVIDチームでの研修を希望したところ、快く受け入れてもらることができました。中等症から重症の患者さんまで、最先端の医療を学ぶことができる上に、いま求められている医療を提供できている実感もあります。上級医の指導のもと、研修医の立場でありながら責任を持って仕事をさせてもらえる当院での研修を選んでよかったと感じています。



後期臨床研修医

救急と内科の臨床力をどちらも伸ばせる
バランスに優れた環境です

豊口 将

当院は340床の中小病院ですが、地域医療支援病院として救急搬送を年間5,000台、近隣の医療機関からの紹介を多く受け入れています。そのため、外来・救急・入院とありがたいことに非常に忙しい日々を送らせて頂いております。超高齢者社会において内科医に求められる能力は多く、当院は時代のニーズに合う内科医としての役割を果たしており、後期研修医にとってそのトレーニングをする場として申し分ない環境です。また、コロナ感染症診療や災害拠点病院としての役割も担っており、医師としてやりがいを強く感じています。

チーム医療の中で主治医に重きをおいており、1人の医師として責任感を持って診療にあたれます。ただし、困難にぶつかった時は科を問わず経験豊富な指導医陣による細やかなフォローもして頂ける恵まれた環境でもあります。特に、毎日のモーニングカンファレンスは当科の目玉でもあり、自分の臨床力を伸ばすためにとても有意義な時間となっています。



指導医

短い期間でより多くの手術を経験できます

外科副部長 小峯 修

市中病院の特性から、当センターの外科は規模の割にたくさんの症例、手術を実施しております(年間700~750ケース)。その内、緊急を要する手術は約250~300ケース)。その機会に立ち会える、手術に参加できるということは、短い研修医時代に貴重な経験をより多く学べるということです。実際の手術に臨んで学ぶことは膨大です。知識・手技はもちろんですが、肉体的にも精神的にも集中力・タフさを必要とします。そして手術で最も大事なことはチームワークです。その為にはコミュニケーション能力が求められるので、いろいろな経験を積んで視野の広い価値観や豊かな人間性を育んでほしいと思います。



初期臨床研修プログラム

ホスピタリストの養成を目的とし、
研修医の意思も考慮した弾力性のある構成



《研修体制》

卒後7年以上の実質的な上級医を各診療科に配置し、うち1~2名が指導医となります。指導医は、2年間を通じての評価と指導はもちろんのこと、さらにメンターとして医学・医療以外の生活面や社会面での幅広い相談に関わる体制としております。

《オリエンテーション》

診療開始前に約1週間のオリエンテーションを行い、実際の診療に必要な項目を説明・解説します。

1.センターの理念と研修の目的	5.診療録の書き方と病歴管理	9.在宅医療・福祉・介護
2.研修カリキュラムと研修の評価	6.死亡診断書の書き方・剖検のとり方(剖検室の見学)	10.救急患者への対処の仕方
3.医療事故と安全管理	7.コンピューターオーダリングシステム研修	11.薬方箋の書き方と薬剤の基本知識
4.感染対策	8.保険診療	《体験講座》他職種の仕事の実態見学

《研修カリキュラム》

4~12週で1クールのローテーション方式。ローテーションする順番は研修医全体のローテーションの中で決定するため、順不同です。
2年間の研修進捗管理を行い、臨床研修目標が到達可能となるよう配慮します。

●指導医とのマンツーマン方式

1年目 内科24週 ← 救急12週 → 外科12週

プログラム期間中の2年間は、モーニングカンファレンス・回診、各診療科のカンファレンスへの参加が必須になり、CPCを最低1回担当し、発表を行います。

毎月1回開催される地域医療機関との合同症例検討会で症例発表を行い、学会発表を複数回経験することも必須です。

給与 1年次40.7万円/月(当直手当含む) 賞与 76.3万円/年



《患者の受け持ち》

最大8~10名までを受け持ち、指導医や時にはシニアレジデントとともに担当医として診療にあたります。最終的な診療上の責任は指導医にあります。

《剖検・手術》

担当患者が手術または剖検になった場合、必ず立ち合いの所見を回診、またはカンファレンスで報告します。



●指導医とのマンツーマン方式+各診療科の指導医が参加する場合あり

2年目 小児科12週 ← 精神科4週 ← 地域医療4週 ← 産婦人科4週 ← 選択必修12週 ← 自由選択12週

内科	内科、外科、地域医療、小児科、精神科、産婦人科、一般外来(内科との並行研修)
精神科	泌尿器科、整形外科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、病理診断科、脳卒中・脳神経センター(脳神経外科・脳神経内科)、皮膚科、リハビリテーション科から3科12週
産婦人科	上記科目+自治医科大学附属医療センター各診療科より12週

《協力病院・施設での研修》

- 産婦人科(4週)：自治医科大学附属さいたま医療センター、さいたま市立病院、医療法人慈正会丸山記念総合病院
- 精神科(4週)：埼玉精神神経センター
- 地域医療(4週)：南魚沼市民病院、さいたま北部医療センター、医療法人明医研ハーモニークリニック、小笠原村診療所(4週以上)

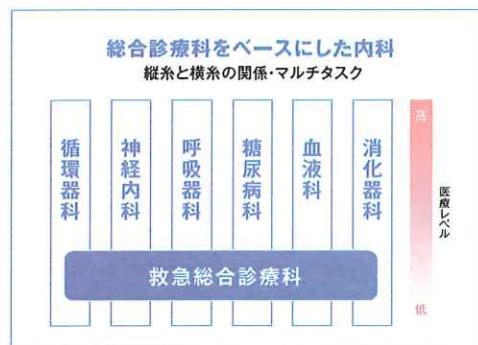
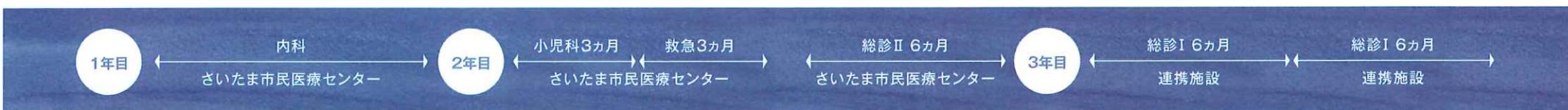
給与 2年次46.3万円/月(当直手当含む) 賞与 152.7万円/年

総合診療専門研修プログラム

高いプロフェッショナリズムと
コミュニケーション能力を兼ね備えた
“患者の軸”になれる医師に

2018年度から疾患管理の軸になれる医師の育成をスタート。救急総合診療科に属して急性期内科系疾患の管理を中心に学び、小児科、地域医療などをローテートし不足部分を補います。診療所、地域医療支援病院から大学病院まで、置かれた場所で活躍できるアカデミックな総合診療専門医を目指せます。

当センターでは日本プライマリ・ケア連合学会認定 新家庭医療専門医プログラムも有しており、日本専門医機構認定総合診療専門研修プログラムとの連動研修も可能です。3年間で総合診療専門医が取得可能ですが、さらに1年延長することで新家庭医療専門医も取得できます。尚、新家庭医療専門医プログラムはWONKA(世界家庭医機構)による国際認証を取得しており国際標準の家庭医といえます。



《指導体制と特徴》

当センターの内科系指導医は全員総合診療の経験を有し、かつサブスペシャリティの専門医として臓器別専門内科を担当しています。ERと内科を一体運営し、臓器別内科の壁を設げずに“内科”としており、救急外来から急性期病棟、回復期病棟までシームレスな診療を行います。治療方針は内科系医師全員が一堂に会する毎朝のカンファレンスで決定します。臓器別内科チームが総糸、救急総合診療科が横糸となり、患者毎に最適なチームを構成する体制は、幅広い領域を研修すべき総合診療専門医研修に最適なシステムであると自負しています。

《シミュレーション教育と電子教科書》

シミュレーション教育として、BLSやICLS、JMECC（内科救急・ICLS講習会）を院内で開催。Saitama Stroke Networkの基幹病院に認定されており、ISLS（Immediate Stroke Life Support 神経救急蘇生）も実施し、救急総合診療科ではPA投与から脳血管内治療まで主体的に行っています。電子教科書は欧米のホスピタリストも用いているUpToDate、英文臨床雑誌や教科書が読めるClinical Keyや今日の臨床サポートを採用。また、抄読会としてACP（米国内科学会）journal clubを毎週実施しているほか、埼玉プライマリ・ケア連合研究会などで開催されるポートフォリオ発表会に指導医と共に出席し、ポートフォリオの作成に関わります。

《地域医療の実践（総合診療）》

当センターでは役割分担をしており、成人の「病気」は内科が担当し、成人の「ケガ」は外科が担当していますが、総診では一人ですべての疾患に対応する能力を身につけます。地域医療のプログラムとしてべき地医療の実践にも力を入れていて、兵庫県の公立浜坂病院や公立村岡病院、新潟県の南魚沼市民病院で地域包括ケアシステムの実際を学びます。（希望に応じてさいたま市内での実施も可能）そのほか、明医研ハーモニークリニックと連携し病院医療から在宅医療へつなぐTransitional Careの研修もあります。さらに、希望に応じて日本医師会認定産業医の資格を取得したり、DMATの隊員に加わり災害医療の訓練を受けることも可能です。



《連携施設》

- 【総診】
- 医療法人明医研ハーモニークリニック
- ちづるファミリークリニック
- 公立浜坂病院
- 公立村岡病院

【総診II】

- 自治医科大学附属さいたま医療センター

《カンファレンス》

- モーニングカンファレンス : 毎朝、内科系医師全員で全ての新入院患者を対象にディスカッションを行っています。
- 内科総合カンファレンス : 毎月曜日、興味深い症例を検討しています。
- ケーススタディー : 第2曜日、他病院・医師会の先生方を招き、臨床推論のオープンカンファレンスを開催しています。
- 外部講師による院内講演会(数回/年) : 外部講師を招いて講演会を実施します。
- 放射線読影カンファレンス : 放射線専門医によるレクチャーを実施しています。
- 心エコカンファレンス
- 心臓リハビリテーションカンファレンス(多職種カンファレンス)

給 与 1年次 55.6万円/月 2年次 56.9万円/月 3年次 58.2万円/月

賃 与 1年次 103.1万円/年 2年次 176万円/年 3年次 181万円/年

小児科専門研修プログラム

二次診療のcommon disease、
大学病院2施設での高度医療を経験し、
subspecialityを決めて次のステージへ

2020年度から、小児科専門研修プログラムを行っています。紹介・二次救急への対応で、小児医療の中で最も件数の多いcommon diseaseの診療を経験できます。さらに大学病院2施設で半年ずつ研修し、高度三次医療も経験することができます。研修終了後に小児科専門医の受験資格が得られます。

当院はさいたま市からの委託事業として小児二次救急を365日受け入れています。当院、自治医大さいたま医療センター、さいたま市立病院の3施設で、さいたま市の夜間休日の小児二次救急を受け入れています。救急搬送される小児内因性疾患の半数近くを当院で担当し、年間約1,300件を受け入れています。この豊富な症例を経験することにより、充実した小児科研修となるでしょう。また、365日対応するために、十分な人数の当直者を配置しているので、専攻医はバックアップ、相談相手のある状態での診療が出来ます。



日中は地域一次診療施設からの紹介を受け入れていますので、外来精査・入院加療をじっくり行うことができます。当院常勤医、大学・小児病院からの非常勤医による小児科専門外来も行っており、自分の将来のサブスペシャリティとして考えている分野の専門外来の見学・診療を経験し、次のステップにつなげることができます。

地域の総合医としての小児科医を目指す方も、アレルギーや神経や心身症に興味がある方も、全般を学びながら、自分の次の段階、サブスペシャリティを決めていくことが出来ます。研修終了後に小児科専門医の受験資格が得られます。

【専門外来】

食物アレルギーにおいては埼玉県の中心的施設として、多数の患儿を受け入れており、食物経口負荷試験や経口免疫療法に積極的に取り組んでいます。日本アレルギー学会により研修施設として認定されています。

小児神経については4人の常勤・非常勤の医師が外来を担当しており、多様な外来の見学、自分の症例のコンサルテーションが可能です。

小児心身症は常勤・非常勤の医師が担当しており、摂食障害の患儿の長期入院対応なども行っています。

小児内分泌外来は常勤・非常勤の医師が担当しており、入院での薬物負荷成長ホルモン分泌試験なども行っています。

小児腎臓外来は大学からの非常勤の医師が担当し、入院は常勤医が担当します。2021年前半6ヶ月でネフローゼ症候群の入院加療は3件ありました。

小児循環器外来は大学・小児病院からの非常勤医師が週替わりで担当しています。

小児血液外来は、大学からの非常勤医師が担当しています。



《指導体制》

小児科専門医取得後10年目以上でアレルギー、神経、内分泌、心身症、炎症性疾患、遺伝などをサブスペシャリティとする指導医が常勤しています。循環器、血液、腎臓などの分野については、専門外来を担当する医師の指導を受けられます。3年間の専門研修の間に、自分のサブスペシャリティを見つけて、次のステップの相談をすることができます。専攻医1年目は単独での当直ではなく、上級医との当直で、判断に迷えば相談が出来る体制です。

《カンファレンス》

- 毎朝チーム毎に治療方針を決定し、毎夕科全体でSign Out カンファレンスを行います。
- 月2回小児科カンファレンスを行い、症例検討をします。
- 院外の下記カンファレンス・学会に参加し、発表を行っています。
 - 小児科学会埼玉地方会
 - 埼玉県小児重症患者診療ネットワーク症例検討会



《連携施設とのローテーション》

当院はNICU、PICUはありません。新生児医療、三次救急、先天性心疾患、血液疾患などの診療は連携する大学病院で学ぶことになります。東京大学医学部附属病院で6ヶ月勤務し、血液疾患、神経疾患、心疾患やPICUでの高次救急医療を学びます。帝京大学医学部附属病院で6ヶ月勤務し、神経疾患、代謝疾患、心疾患などの診療やNICUの新生児医療を学びます。

《電子図書》

UpToDate、Clinical Key、今日の臨床サポートなどが利用可能です。

《連携施設》

- 東京大学医学部附属病院
- 帝京大学医学部附属病院